

11/13 (木) 11/20 (木) 11/27 (木) 「世界の料理教室」を通して国際交流

生涯学習課の町民教養講座と、当町で活動中の茨城町国際交流クラブが共催し、世界各国の主婦の方を講師に招き、その国の文化や家庭料理を学ぶ「世界の料理教室」が開催されました。

今回は「フィリピン」「インドネシア」「中国」の3か国の家庭料理を作成。いずれも、見たことのない食材や調味料を使用し、参加者は興味津々の様子。あちこちで片言の英語と日本語が飛び交う中料理が完成し、いざ試食すると、あまり馴染みの無い独特の調味料が日本人の口に合うか不安でしたが、皆さんおいしくいただきました。

「自宅で作ってみた」という方や、「あれにしょう油を入れるとおいしくなるよ」という方など参加者の皆さんは様々なシーンで、この異国の料理を活用しているようです。今後はヨーロッパやアメリカなども視野に入れ、来年度も実施する予定とのことです。

国際交流クラブでは、今度は日本料理を講師の皆さんに楽しんでもらいたい、講師の外国人のお友達にも来てもらい交流をしたいなどと、今後の活動の広がり期待を寄せました。



中国料理調理中



完成したフィリピン料理



インドネシア料理の講師を囲んで

11/23 (日) 地域の絆つながる「第1回鳥羽田ふれあいまつり」

茨城町ふるさと元気づくり事業を活用し、地域の活性化を図っている鳥羽田区では、活性化活動の一環として、「第1回鳥羽田ふれあいまつり」を鳥羽田田園都市センターにおいて実施しました。

当日は輪投げ大会やカローリング大会など、住民参加型のイベントが行われたほか、けんちん汁や甘酒などのおもてなし料理が振る舞われました。また、同事業アドバイザーで、昨年からは鳥羽田地区活性化計画に携わっている常磐大学准教授砂金先生とそのゼミ生も応援に駆け付け、地域の方と一緒にお祭りを盛り上げました。

このお祭りには地域の方約230名が参加。鳥羽田区の黒崎区長は、「今日は子どもから高齢者まで楽しんでもらえた。予想を上回る人出がでてよかった。次年度以降も引き続きやっていきたい。」と、地域の活性化に確かな手ごたえを感じた様子でした。



11/28 (金) 「青葉の森」誕生 子どもの森づくり推進事業でモミジなど植樹



茨城町立青葉中学校に、子どもの森づくり推進事業（公益社団法人茨城県緑化推進機構）により「青葉の森」が誕生しました。校舎前に造られた「青葉の森」には、モミジやハナミズキなどが植樹され、これから青葉中学校と共に歴史を刻んでいくこととなります。

生徒たちとともに植樹を終えた「いばらき緑の大使」の高田恵仁さんは、「この森が成長して生徒たちの憩いの場になればいいと思います。」と植樹に先だって結成された「青葉中緑の少年団」の活躍に期待を寄せました。

10/29 (水) JA水戸 学校給食に茨城町産新米寄贈

水戸農業協同組合から、茨城町の学校給食に地元でとれたお米を食べてもらおうと、新米コシヒカリ約270kgを寄贈していただきました。この日は寄贈式が行われ、水戸農業協同組合の八木岡組合長から小林町長に米俵が手渡されました。寄贈された新米は、11月5日に学校給食に使用され、子どもたちはおいしそうに食べていました。

また、この日は水戸農業協同組合と茨城町が締結する、見守り協定と災害時協力協定の締結式があわせて実施されました。見守り協定では、要援護者の異変や道路の陥没に気がついた時には町へ通報を行います。災害時協力協定では、災害時に食料品などの生活必需品の供給を行うこととしています。



11/8 (土) 「沼前まつり」 閉校記念ソングを披露

保護者や地域の方々を招待し、児童たちが育てた農作物等を振る舞ったり、劇や歌を披露したりする秋祭りが複数の小学校で行われました。



沼前小学校では「沼前まつり」が実施され、閉校記念ソング「ありがとう沼前小学校～閉校を迎えるこのとき～」が初めて披露されました。この歌は沼前小学校の児童たちの言葉を集めて歌詞とし、同校教諭の小林先生が曲をつけた歌で、児童たちの小学校に対する想いがこもっています。

また、この日は地域防災訓練もあわせて行われ、地震の発生を告げる校内放送が響くと、教室にいた児童たちはヘルメットをかぶり迅速に避難。避難先の体育館では、非常食の試食や煙体験、AED体験が行われました。

11/12 (水) 児童生徒が堪能 学校給食に常陸牛

茨城県常陸牛振興協会と茨城県肉用牛生産者協会より、町内の学校給食に常陸牛約130kgを寄贈していただきました。

川根小学校では5年生を対象に、常陸牛の生産や販売に関わる関係者が講師となって学習会が行われ、その後児童たちと一緒に給食を食べました。

「やわらかくておいしい」と笑顔を見せる児童たちの姿に、生産者協会会長の橋本武二さんは、「子どもたちにおいしいと言ってもらえるのが一番嬉しい。」と話してくれました。



11/11 (火) 広浦小学校児童 シジミの放流を体験

広浦小学校の3・4年生17名が、大潤沼漁業協同組合が育てたシジミの稚貝を放流しました。

児童たちは、漁協事務所前でシジミの種類や雌雄の見分け方などについて学習した後、潤沼湖岸で一人あたり約3万個の稚貝を放流しました。

大潤沼漁業協同組合では、毎年資源保護のためシジミの稚貝を育てており、今年は6月から7月にかけて採取した卵から、約3億のシジミの稚貝を育成しました。

放流を終えた児童たちにはシジミ汁が振る舞われ、「おいしすぎてオスメスを見分けるのを忘れてしまう。」と地元の味に舌鼓を打ちました。

